

形成外科

Department of Plastic and Reconstructive Surgery

形成外科長
鈴木 茂彦



“かたち”と“機能”の両立をめざして

先天性、後天性を問わず、あらゆる変形・醜形・欠損・機能障害を修復し、患者さんのQOL向上を目標としている。他科との連携手術も多く、スムーズなチーム医療の実践に日々努め、下記を中心に診療を行っている。

- ①先天性疾患(口唇裂口蓋裂・小耳症など)に対する長期的総合的な治療とフォローアップ
- ②顔面外傷、熱傷等に対する迅速な対応
- ③慢性皮膚潰瘍(皮膚難治性潰瘍・褥瘡など)に対する再生医療
- ④手足の外傷・先天異常に対する専門的治療
- ⑤皮膚皮下悪性腫瘍・良性腫瘍の外科的治療
- ⑥母斑・血管腫に対する手術・レーザー治療
- ⑦眼瞼・眼窩の形成外科的治療
- ⑧瘢痕・ケロイドの治療
- ⑨悪性腫瘍(頭頸部がん・乳がん)摘出後の再建

代表的診療対象疾患

口唇裂・顎裂・口蓋裂、粘膜下口蓋裂、小耳症(先天性耳介外耳道欠損)、その他の耳介変形、手および足の先天異常(多指(趾)症、合指(趾)症、裂手症、巨指(趾)症、先天性拘縮輪症候群)、顔面骨骨折、顔面軟部組織損傷、熱傷、難治性潰瘍、褥瘡、糖尿病性足潰瘍、皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、涙器悪性腫瘍、頭頸部悪性腫瘍(術後再建)、血管腫、母斑、瘢痕および肥厚性瘢痕・ケロイド、瘢痕拘縮、乳がん(術後再建)、眼瞼下垂症、腋臭症、陥入爪、巨口症、翼状頸、臍ヘルニア、顔面神経麻痺など

診療体制と治療実績

体制と手術実績

スタッフは教授以下教員8名(准教授1名、講師1名、助教6名)、医員7名、言語聴覚士2名(リハビリテーション部所属)。一般外来は月曜日から金曜日まで毎日、外来担当医が専門外来も受け持っている。

年間の手術件数は約1,200件あり、6割はデイ・サージャリーである。代表的なものは口唇裂・口蓋裂などの先天異常の手術が約200件、悪性腫瘍とそれに関連する再建手術が約100件、瘢痕・ケロイド・瘢痕拘縮の手術が約100件。

外来診療体制と実績

一般外来の他に、専門外来として、口唇裂・口蓋裂、口蓋裂言語外来、小耳症、顔面外傷、瘢痕・ケロイド、再建外科(頭頸部・乳房)、皮膚腫瘍、手足先天異常、眼瞼眼窩、難治性潰瘍、皮膚再生・人工皮膚、レーザー外来がある。デイ・サージャリー部門では全麻手術も可能で積極的に日帰り

手術を行っており、全身麻酔・局所麻酔あわせて年間約700件である。

入院診療体制と実績

22床の病床を有しており、入院患者数は年間約500人、入院期間は平均10～15日と比較的短い日数で治療を行っている。



高度先進医療の取り組み

再生医療の研究を推進

皮膚、脂肪、神経、骨、軟骨などの再生医療の研究を進め、次世代の高度先進医療適応をめざしている。「自家培養真皮を用いた糖尿病性潰瘍に対する創床形成療法の安全性と臨床効果の検討」の臨床試験、および「難治性皮膚潰瘍を対象とした新規医療基材と線維芽細胞増殖因子

との併用による創傷治癒の安全性および有効性に関する探索的臨床試験」の医師主導治験を終了している。現在は、ケロイド治療薬や新規創傷治療材料、皮膚、弾性線維、脂肪の再生、新しい手指機能診断法などの開発を行っている。すでに一部は基礎研究を終了しており、臨床応用をめざしている。